

巻頭言ならびに令和6年度総合教育センター活動報告

大坂 遊

要旨

令和3(2021)年に発足した周南公立大学総合教育センター初の紀要を刊行するにあたり、センター長の大坂による巻頭言を掲載する。あわせて、令和6(2024)年度にセンターが実施した主要な取組を簡潔に報告する。

キーワード: 周南公立大学、総合教育センター、巻頭言、活動報告、地域貢献

巻頭言

周南公立大学総合教育センターの発行する本誌をご覧いただき、誠にありがとうございます。

周南公立大学総合教育センター(以下、総合教育センター)は、本学の教育の質を高めるために、旧徳山大学時代である令和3(2021)年に設立され、今日に至るまで多くの改革と発展を遂げてまいりました。本センターの主な役割は、本学の特色である総合教育(全学に関わる基盤教育、留学プログラム、教職課程などの総称)の充実、学習支援の提供、教育方法の研究開発、学習成果の可視化、教職員の研修支援など、多岐にわたります。特に、学生一人ひとりの学びを支えるために、アクティブラーニングの推進やEQ教育プログラムの充実に力を入れております。

また、時代の変化に対応しながら、地域社会との連携を強化することも重要な使命の一つです。本学は、周南地域に根ざした教育を実践し、地域の課題解決に貢献できる人材を育成することを目指しております。一例として、令和5(2023)年度に発足した「地域共創教育コンソーシアム」があります。これは、本学が呼びかけて周南圏域(周南市・下松市・光市)のすべての高等学校、総合支援学校、市教育委員会とともに立ち上げたもので、「地域の子どもを地域で育て、地域の次代を担う人財に育成する」ことをビジョンに掲げ、教育活動における連携をはかるものです。総合教育センターがコーディネーターとして取りまとめをしており、本年度はキックオフシンポジウムを開催いたしました。総合教育センターは、これからも地元企業や自治体との協力を深め、学生が実社会で活躍できる力を養うための教育プログラムを展開してまいります。

本誌は、こうした取り組みの一端を紹介するとともに、高等教育に関する最新の研究や実践事例を共有する場として発行しております。教職員の皆様にとって有益な情報源となり、教育のさらなる発展につながることを願っております。

最後になりますが、本誌の発行に際し、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今後も、総合教育センターは教育の向上に努め、学生の成長を支える環境づくりに励んでまいります。引き続き、皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

周南公立大学総合教育センター長 大坂 遊

令和 6 (2024) 年度におけるセンターのおもな取り組み

令和 6 (2024) 年 4 月

- ・PROG (ジェネリックスキル測定テスト) の実施 (1・3 年生対象)
- ・TOEIC Bridge テストの実施 (1 年生対象)
- ・ピア・サポートセンター新年度業務の開始
- ・総合科目「ワークショップデザイン I」授業開始

令和 6 (2024) 年 5 月

- ・地域連携コーディネーターの採用、業務開始
- ・客員教授廣中雅之氏による特別講演会「日米関係の過去、現在及び将来」主催

令和 6 (2024) 年 7 月

- ・地域共創教育コンソーシアムキックオフイベントの主催
- ・「公開講座 DAY」にて 2 講座を提供・実施
- ・客員教授廣中雅之氏による特別講演会「世界の核戦略の歴史」主催

令和 6 (2024) 年 8 月

- ・オープンキャンパスにて本学総合教育の特色を紹介するブースの設置
- ・山口県立新南陽高等学校と「総合的な探究の時間」改革の協議開始 (10 月以降、毎月実施)

令和 6 (2024) 年 10 月

- ・山口県立新南陽高等学校で探究ワークショップを担当
- ・客員教授廣中雅之氏による市民公開講座「国際情勢を読み解く～中国、ロシア及び北朝鮮の対外戦略について～」主催

令和 6 (2024) 年 12 月

- ・客員教授藤澤信義氏による特別講演会「藤澤信義 その軌跡と戦略」主催
- ・客員教授廣中雅之氏による特別講演会「国際情勢を読み解く～米国大統領選挙後の日米外交・安全保障関係～」主催

令和 7 (2025) 年 2 月

- ・客員教授廣中雅之氏による市民公開講座「国際情勢を読み解く～米国大統領選挙後の日米外交・安全保障関係～」主催
- ・学修成果の可視化に関する全学 FD/SD の実施

令和 7 (2025) 年 3 月

- ・山口県立新南陽高等学校「新高マナビ場」講師、学生ボランティアのコーディネートを担当

上記は、主要な教育活動や対外的な事業を中心に記載しています。この他にも、センター関係者によって、英語多読プログラムの推進、ピア・サポートセンター関連イベントの開催、都市圏大学との連携教育プログラムの検討など、多岐にわたる活動を実施いたしました。

次年度も、学生の学びをより深め、地域社会と連携した実践的な教育を推進してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。